

5. Ruby・OSS履修プログラム（8単位）

プログラムの目的

本プログラムは、実践的なプログラミングの学習と、これを活用するための情報経済・情報産業に関する学習を通じて、実社会の場で活躍することができる高度な人材を育成することを目的とする。

履修資格

本プログラムの履修資格は、次のとおりとする。

- 一 平成27年度以降に入学し、基礎科目「情報科学」を修得している者
- 二 平成26年度以前の入学者で、基礎科目「情報科学」または基礎教育科目「情報科学概論」「情報科学演習」を修得しており、卒業時までプログラム修了が見込める者

履修手続

本プログラムを履修する者は、次の書類により、履修手続をしなければならない。

- 一 本プログラム履修申請書（別紙様式）
- 二 その他本学が必要と認める書類

構成する授業科目及び履修方法

次の履修表により履修すること。

履修表（令和4年度以降入学生用）

科目区分	分類	授業科目名	単位数	必修	選択
教養育成科目	基礎科目群	情報化社会と経済	2	/	4
		Rubyプログラミング	2		
		情報と地域-オープンソースと地域振興-	2		
		全学開放科目	プログラミング入門 I		
成教養科目	応用科目群	開発フレームワーク	2	/	4
		情報経済論	2		
		情報産業論	2		
		全学開放科目	Cプログラミング		
合 計				8	

履修上の注意

- 一 基礎科目群及び応用科目群からそれぞれ2科目以上を履修すること。
- 二 平成30年度に入学した者で「mrubyプログラミング」を履修した者は、修了要件単位に含めることができる。

履修表（平成30年度以降入学生用）

科目区分		分類	授業科目名	単位数	必修	選択
教養 育成 科目	入門科目／ 人文分野	基礎科目群	情報化社会と経済	2		4
	発展科目／ 自然分野		Rubyプログラミング	2		
	社会人力養 成科目		情報と地域-オープンソースと地域振興-	2		
	全学開放科目		プログラミング入門 I	2		
成 教 科 目 育	発展科目／ 自然分野	応用科目群	開発フレームワーク	2		4
全学開放科目	情報システムと職業		2			
	情報経済論		2			
	情報産業論		2			
	Cプログラミング		4			
合 計					8	

履修上の注意

- 一 基礎科目群及び応用科目群からそれぞれ2科目以上を履修すること。
- 二 平成30年度に入学した者で「mrubyプログラミング」を履修した者は、修了要件単位に含めることができる。

履修表（平成25年度から平成29年度までの入学生用）

科目区分		分類	授業科目名	単位数	必修	選択
教養 育成 科目	入門科目／ 人文分野	基礎科目群	情報化社会と経済	2		4
	発展科目／ 自然分野		Rubyプログラミング	2		
	社会人力養 成科目		情報と地域-オープンソースと地域振興-	2		
	全学開放科目		プログラミング入門	1		
教養 育成 科目	発展科目／ 自然分野	応用科目群	開発フレームワーク	2		4
	発展科目／ 学際分野		mrubyプログラミング	2		
	全学開放科目		情報システムと職業倫理	2		
			情報経済論	2		
			情報産業論	2		
			CプログラミングB	2		
			専門教育科目	CプログラミングA		
合 計					8	

履修上の注意

- 一 基礎科目群及び応用科目群からそれぞれ2科目以上を履修すること。
- 二 Cプログラミングに係る科目を履修する場合は、次のとおりとする。
 - イ 総合理工学部数理・情報システム学科情報分野の者は、次の科目を履修すること。
 - (1) 平成27年度以降入学生 「CプログラミングA」（4単位）
 - (2) 平成25年度から平成26年度入学生 「CプログラミングA」（2単位）
 - ロ イ以外の者は、「CプログラミングB」を履修すること。

修了要件

- 次の要件をすべて満たすこと。
- 一 所属する学部・学科又は課程の卒業要件を満たすこと。
 - 二 上記履修表により履修し、基礎科目群から2科目（4単位）、応用科目群から2科目（4単位）以上の合計8単位以上を修得すること。

履修証明書交付要件

- 次の要件をすべて満たすこと。
- 一 3年次以上の学生であること。
 - 二 本プログラムの基礎科目群を4単位修得済み、または履修中であること。
 - 三 本プログラムの応用科目群を4単位修得済み、または履修中であること。